白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」または「家族へのおもい」〉

小学生３・４年の部　優秀賞

「わたしのやさしいお姉ちゃん」

松任小学校三年

八田（はった）　真凛（まりん）

わたしには四年生のお姉ちゃんがいます。わたしとお姉ちゃんは学年が一つしかかわらないので、小さいときからいつもいっしょに遊んでいました。学校に行くときも、学校から帰ってくるときも、いつもいっしょだし、おふろもいつもいっしょに入って、毎日ずっといろんなおしゃべりをします。今日学校であったことや、今日べんきょうしたこと、友だちのこと、いろんなお話をするのが楽しすぎて、ずっとずっとおしゃべりしていたいくらいです。そんないつもいっしょにいるお姉ちゃんは、わたしのお姉ちゃんだけど、わたしにとっては一番の友だちみたいなそんざいです。いつでもやさしいお姉ちゃんのことがわたしは大すきです。

毎日かならずおしゃべりする内ようは、今日のきゅう食はどれをおかわりしたかです。おかわりじゃんけんにまけてグラタンがもう一つもらえなくてくやしいお話をしたら、お姉ちゃんはおかわりでもう一つもらえたみたいです。すごくうらやましかったので、おうちでお姉ちゃんとじゃんけんの練習をしました。何回も何回もいっしょにじゃんけんして、次のおかわりじゃんけんはぜったいかつぞという気持ちになりました。お姉ちゃんと練習をしたから、じゃんけんが強くなったと思います。毎日のきゅう食がもっと楽しみになりました。

今日のじゅぎょうでどんなことをしたのかおしゃべりするときは、わたしの話をすると、「これみさきもやったよ！」と話してくれます。ここがちょっとむずかしいとそうだんすると、「これ、こうやってするんやよ。」と、教えてくれます。

「こうやって書いたらわかりやすいよ。」と、答えがわかりやすいやり方でもわたしに教えてくれます。わからなくて、べん強するのがいやだなと思うこともあるけど、お姉ちゃんがやさしく教えてくれるので、もうちょっとがんばろうかなと思えます。お姉ちゃんは何でも知っている先生みたいでかっこいいなと思います。わたしも学校でわからないなあとこまっている友だちがいたら、お姉ちゃんみたいにやさしく教えてあげたいです。

お姉ちゃんとはよくクイズやなぞなぞをして遊びます。家でも、車の中でも、ずっといっしょに問題を出し合います。わたしがわからなくておこってしまうと、ヒントを出してくれるし、それでもわからないときは、大ヒントを出してくれます。答えがわかったときは、やったーと声が出るくらいうれしいです。もっと、もっと、むずかしい問題を出してほしいなと思うし、わたしもお姉ちゃんがぜっ対にとけないようなむずかしい問題をさがすのをがんばっています。

いっしょにおふろに入るときは、歌を歌ったりして遊んでいます。学校の今月の歌を歌うときは、高い声で歌ったり、一人ずつ交代で歌って、ここ上手やねとか、ここちょっと直した方がいいかもよと言い合っています。おふろの中で歌うと、自分の声がひびくから、いつもより上手に歌えてるなと思えて、ずっといっしょに歌うのが楽しくて、あっという間に手がしわしわになります。さい近は、おふろの中をあわあわにして遊ぶのが楽しいです。お姉ちゃんがあわでいろんな形を作って見せてくれます。あわをたくさん顔につけていて、ひげみたいだったので、

「サンタクロースみたいやね。」

とわたしが言って、いっしょに大わらいしました。わたしもやりたくなったので、いっしょにあわをつけてサンタクロースになりました。楽しすぎたので、次の日もしました。

でも、いつもいっしょにいるのでけんかもよくしています。前までは、いつもお姉ちゃんはわたしと着たい洋服が同じだったらいいよとゆずってくれてたし、食べたいおやつの味が一つしかなくていっしょだったときも、いいよとゆずってくれました。いつもゆずってくれるので、やっぱりお姉ちゃんはやさしいなと思っていましたが、さい近はお姉ちゃんが強くなってしまったのでゆずってくれません。だから

よくけんかをしてしまうので、お母さんにおこられてしまいます。もしかしたら、次はわたしがゆずる番が来たのかもしれないと思ったので、いつもお姉ちゃんがわたしにゆずってくれたときみたいに、たまにはお姉ちゃんにゆずろうかなと思います。

たまにけんかもしてしまうけど、いつもいっしょに遊んでいて楽しいし、いつもどんなことでもそうだんにのってくれるお姉ちゃんのことがわたしは大すきです。お姉ちゃんがわたしにしてくれることは、全部わたしがよろこぶことばっかりです。そんなお姉ちゃんみたいにわたしもみんなにやさしくできる人になりたいです。みんながたよってくれる人にもなりたいです。

